The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	インターネットを用いた質的量的情報収集システムの開発と実践
Author(s)	神﨑, 初美
Citation	大阪大学, 2005, 博士論文
Version Type	
URL	https://hdl.handle.net/11094/45464
rights	
Note	著者からインターネット公開の許諾が得られていないため、論文の要旨のみを公開しています。全文のご利用をご希望の場合は、大阪大学の博士論文についてをご参照ください。

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

【3】

氏　　名	神　崎　初　美（かん　ざき　はつ　み）
博士の専攻分野の名称	博　士（看護学）
学　位　記　番　号	第　１９３６７　号
学位授与年月日	平成 17 年 3 月 25 日
学位授与の要件	学位規則第４条第１項該当 医学系研究科保健学専攻
学　位　論　文　名	**インターネットを用いた質的量的情報収集システムの開発と実践**
論文審査委員	（主査） 教　授　牧本　清子 （副査） 教　授　小笠原知枝　　教　授　奥宮　暁子

論文内容の要旨

本研究ではインターネット上で継続的に短いインターバルで質的量的データを収集できる新しいシステムを開発し実施した。開発したシステムは、「アンケート作成・回収システム」「個別対応型経過観察システム」である。本システムはノンリアルタイムに研究者対象者間の一対一の交信によってデータ収集が行えることが特色である。

短いインターバルで継続的に記録された量的・質的データを分析した結果、これまで得られなかった症状やコーピングの詳細変化を把握することができた。すなわち①病状安定時に多く出現する「願う」「祈る」コーピング②天候に影響を受け「痛み」に備えるコーピング③激痛時に内省し「ボディイメージ変化を回想する」悲観的コーピング④共存するポジティブとネガティブなコーピングを抽出した。そして研究者との相互記述によるシンプトンマネージメント効果、カウンセリング効果を得た。また、インターネット活用によって対象者達は情報を獲得し RA 仲間間のセルフヘルプを得て、積極的自己表現と社会参加への動機づけとしていた。

論文審査の結果の要旨

神崎初美の博士学位論文では、インターネット上で継続的に短いインターバルで質的量的データを収集できる新しいシステムを開発し実施した。開発したシステムは、「アンケート作成・回収システム」「個別対応型経過観察システム」である。本システムはノンリアルタイムに研究者対象者間の一対一の交信によってデータ収集が行えることが特色である。

短いインターバルで継続的に記録された量的・質的データを分析した結果、これまで得られなかった症状やコーピングの詳細変化を把握することができた。すなわち①病状安定時に多く出現する「願う」「祈る」コーピング②天候に影響を受け「痛み」に備えるコーピング③激痛時に内省し「ボディイメージ変化を回想する」悲観的コーピング④共存するポジティブとネガティブなコーピングを抽出した。そして研究者との相互記述によるシンプトンマネージメント効果、カウンセリング効果を得た。また、インターネット活用によって対象者達は情報を獲得し RA 仲間間のセルフヘルプを得て、積極的自己表現と社会参加への動機づけとしていた。

本研究は、インターネットを駆使した質的・量的データの両方を同時に収集できる画期的なシステム開発である。

神崎は、このシステムを女性在宅リウマチ患者の日々のコーピングの把握に活用した。インターネットの迅速性・簡便性を生かし、個人的なやりとりを継続的に実施することで、今まで抽出できなかったRA患者の病状変動やそれに伴うcopingを捉えた。このシステムはデータ収集だけでなく、患者のsymptom managementやカウンセリングの効果が期待できることも明らかになった。

神崎のシステムは他の病状の対象者にも利用が可能であり、対象者を介護する家族にも広げることが出来る。またInternet therapy、訪問看護の一手段としても利用が可能である。

よって、この博士論文は大阪大学博士（看護学）の学位授与に値する。